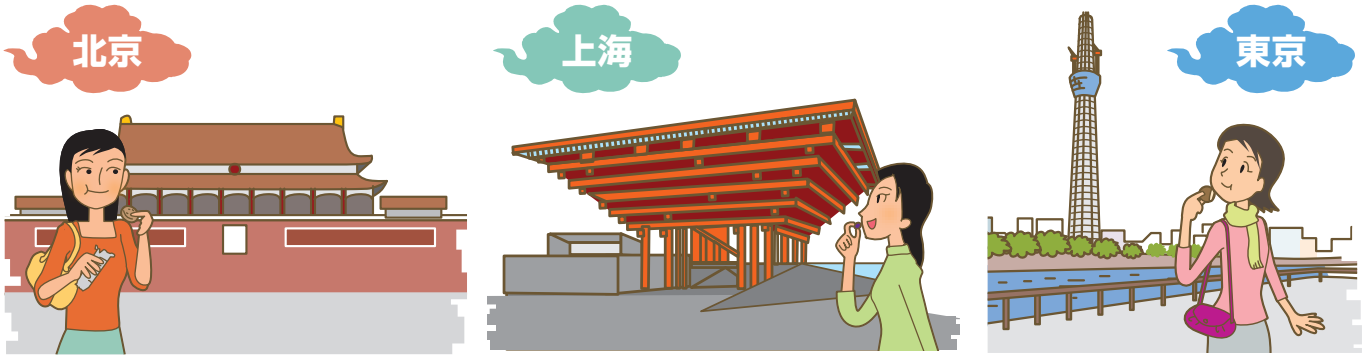
バッとする発見基地
ショートレポート
NO.15

日清オイリオ 生活科学情報

NISSHIN OILLIO
"植物のチカラ"

会社員の間食事情

～3都市（北京・上海・東京）における意識と実態の比較～



調査背景

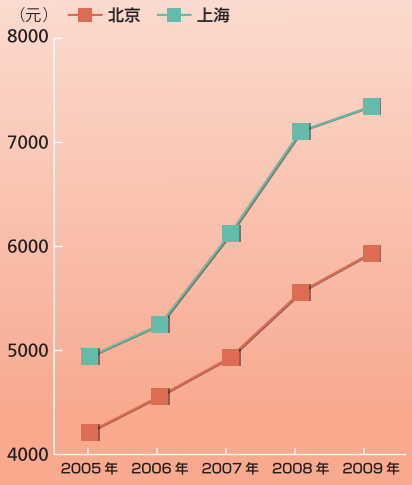
2010年、中国上海では万博が開催され、歴代最多入場数となるなど大変盛況のうちに終了し、その直接経済効果は1300億元（約1兆6千億円）とも試算されています。今年の中国の名目GDPは日本を抜き、米国に次いで世界第2位となることが見込まれているなど、今後ますますの経済発展が予想されます。また経済発展と同様に、食品の消費支出額も年々増加しており（図1）、中国の食事情も大きく変化していくことが考えられます。

近年、日本では偏食、欠食、不規則な食事時間など食への関心の低さや食生活の乱れが問題視されています。日本では食に関する情報や多様な食材などに恵まれてはいるものの、日清オイリオグループ生活科学研究室が以前調査した、北京・上海・東京における若年層の「食」スタイルの比較によると、中国と比較して調理離れや孤食が進んでいる現状が浮き彫りになりました。

また、日本で間食する人は年々増えており（図2）、食生活の乱れによって間食の位置づけが変わりつつあります。さらにここ数年、会社向けの配置菓子の設置が増えたり、会社での需要を意識したスイーツ専門カタログが発行されるなど、間食する場として「職場」が注目されています。

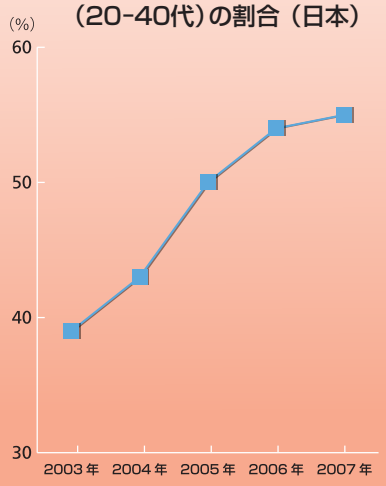
そこで、今後の中国市場を牽引していくであろう中高所得者層の北京、上海の20-40代会社員と、東京の同年代の会社員を対象とし、3都市における間食の意識と実態の違いを把握することを目的にアンケート調査を実施しました。

図1　食品の消費支出の額（中国）



北京統計局「北京統計年鑑」
上海統計局「上海統計年鑑」

図2　毎日1回以上間食している人（20-40代）の割合（日本）



厚生労働省健康局総務課生活習慣病対策室
「国民健康・栄養調査」より改編

目次

調査背景 1
朝食・昼食・夕食をとる場所はどこ？ 2
通勤途中に何を食べているの？ 3
会社での間食はどうしているの？ 4
これから増えそう&減りそうな間食って何？ 6
チョコレートへの想い/スナック菓子への想い 7
お菓子への想いあれこれ 8
Pick Up 中国レポート 10
まとめ